

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 24 No 2

271号

平成27年 2月 5日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

インフルエンザ雑感 2016

院長

1月下旬、宮城県でインフルエンザ警報が発令されたのを機に、取材を受け「Nスタみやぎ」で放映されたので見た人も多いでしょう。仙台では昨シーズンとくらべて5週間遅れで流行期に入りました。改めてインフルエンザについて考えてみましょう。

警報や注意報というのはどんな意味を持つのでしょうか。小児科だけでなく内科なども含めて定点と呼ばれる医療機関があり、毎週感染症毎の患者数を報告しています。その報告数を平均して、例えばインフルエンザの場合1週間で10人を越えたら注意報、30人を越えたら警報となるのです。注意報は今後4週間以内に大きな流行発生の可能性、警報は大きな流行の発生を示しています。情報は、Facebook ページで提供しているので参考に。

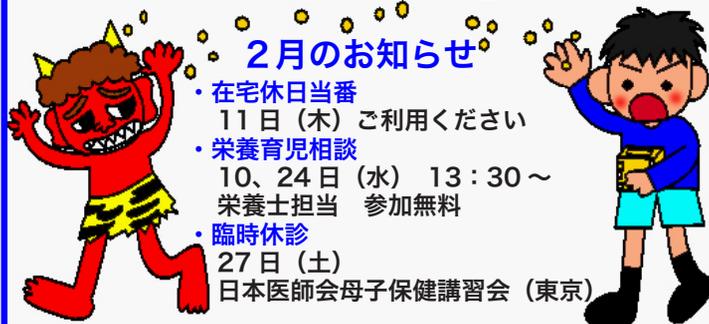
次は診断に関する話題です。毎年のように書きませんが、「病院へ行って検査してもらって下さい」のことです。何か当たり前の気がしますが、これには大きな間違いが潜んでいるのです。この表現ですが、本当は「診断してもらって下さい」でしょう。インフルエンザはもともと集団カゼと呼ばれていて、未だに集団カゼによる学級閉鎖という言葉も使われています。インフルエンザである前に、集団カゼという認識が必要です。あまりにもインフルエンザという病名にこだわり過ぎ、検査ということに結びつけてしまいがちです。周囲でインフルエンザが発生し、集団で高熱などの症状があればインフルエンザのことがほとんどです。つまりこのような場合には検査をしなくても、インフルエンザの診断が可能なのです。インフルエンザ学級閉鎖となったクラスで、1～3日の間に38℃以上の熱があれば検査なしでインフルエンザと診断しても構わないのです。それにもかかわらず、マスコミの「インフルエンザの場合には早めの受診」を鵜呑みにして、熱がでてすぐに受診します。その結果欠席が10人、うち2人がインフルエンザという奇妙な状況になってしまいます。これは集団カゼであり、全員がインフルエンザに決まっているのです。もしこの8人がインフルエンザでないとしたら、集団感染を記す何か未知のウ

イルスによる感染症という大変なことになってしまいます。「検査してもらって下さい」のもう一つの問題は、保育園や学校などの現場が子どもに痛みを与える権限があるのかです。検査には痛みがつきもので、この痛みを強要することはできません。意地悪な院長は、「痛みを強要することは保育園で痛めつけられることと同じだよ。そんなことがあったら親御さんは許さないはず」と言うことにしています。検査の痛みは病気で辛い思いをしている子どもを楽にするため仕方ないことで、検査は本人のためであることをもう一度確認して下さい。集団生活の管理や親の心配のためだけに、子どもが痛い思いをすることを避けるべきと思うのが小児科医です。このことに拍車をかけている医療機関側にも責任があるかもしれません。発熱直後で陽性にならない時期に検査をする医療機関も存在します。検査をすれば当然のことながら検査料が発生します。陰性にもかかわらず痛い思いをさせて検査料をせしめると捉えられても仕方ありません。医師は検査をすることが本業では無く、検査の必要性を考慮し、適切な診断することが医師の使命です。

治療に関しても一言加えておきましょう。さて抗インフルエンザ薬は何に効くのでしょうか。抗インフルエンザ薬は、ウイルスを殺す薬では無く、ウイルスの増殖を抑える薬です。抗インフルエンザ薬の効果は発熱期間の短縮であり、ほかの症状の改善に関してははっきりしたデータがありません。治療により熱が下がっても、ウイルスによって起きた細胞の障害によって咳などの症状が長く続くことがあります。このような症状の改善には抗インフルエンザ薬の期待ができず、人間の持っている治癒力に頼るしかありません。となると熱も高くない軽症インフルエンザに対して、抗インフルエンザ薬の使用はあまり意味がないのかもしれませんが、ウイルスの耐性化の問題もあり、日本小児科学会では「軽症インフルエンザには抗インフルエンザ薬を推奨しない」と提言しています。

最後に今回の記事をまとめてみます。まずはインフルエンザを侮ってはいけませんが、必ずしも全員が重症の経過を辿るものではありません。ですから、検査の時期を考慮して、できれば発熱6時間以上経過した後受診しましょう。検査は苦痛をとまなうので、集団カゼの認識を持って臨床診断だけで充分であることを理解しましょう。軽症で経過することもよくあるので、必ずしも抗インフルエンザ薬が必要とならないことも覚えておきましょう。

とは言っても、インフルエンザが疑われる場合には経過に十分注意し、重症の気配がある時は早めの受診を心がけてください。そして、これからのインフルエンザ流行に対して、手洗い・マスクなどの感染防止対策をとりましょう。



2月のお知らせ

- ・在宅休日当番
11日(木)ご利用ください
- ・栄養育児相談
10、24日(水) 13:30～
栄養士担当 参加無料
- ・臨時休診
27日(土)
日本医師会母子保健講習会(東京)

『がんばろう！宮城 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は7通のメールをいただきました。年末の挨拶から始まる院長とのやり取りを紹介しますが、理想としているかかりつけ小児科医の姿を証明してくれているようです。プライバシーに係るのことでしたが、匿名ということで協力してもらいました。

“○、◎の母です。川村先生、スタッフの皆様、今年も一年間本当にありがとうございました。今年も川村先生に○の事をたくさん聞いて頂き、たくさん支えて頂きまして本当にありがとうございました。私はいつも川村先生に話を聞いて頂いて、たくさん教えて頂いて、たくさん支えて頂けるという気持ちでいろいろな問題に前向きに頑張っています。本当にいつも川村先生がいてくださる事が私には大きくて…ありがとうございます。○もだいぶ落ち着いてきて、先生にFacebookしてみたら？と言ってみたら「私、Facebookではなんだか上手くできないので川村先生に会いに行く」とこの間言っていました。」行動に移すのにはなかなか時間がかかりますが、川村先生、スタッフの方々の優しさにとっても嬉しい気持ちになっているようです。本当にありがとうございます。まだまだいろいろ気持ちに浮き沈みがあり心配ですが…川村先生、スタッフの方々がいてくださるので頑張っていけます。本当にありがとうございます。来年もどうぞよろしくお願い致します。”



続いて院長の返信。“メールありがとう。あけましておめでとうございます。返事が遅くなってしまいました。○ちゃんの件で話を聞く事は当たり前の事です。当人はもちろんですが、お母さんのこころのケアも重要です。一番辛い思いをしているのは○ちゃんですが、母親という生き物は子どもに負けないくらい辛い思いををしています。子どもが楽になれば、お母さんも楽になる。そう思いながら見守ってあげてください。少し落ち着いてきているようなので安心です。私の力は微々たるもので、お母さんの力が大きかったからです。すぐにF.Bと慌てる必要はありません。時間が解決してくれるはず。来なくなったらくれればいい。そんな気持ちで待ってあげましょう。それでは、○ちゃんとお母さんに、よい年になることを願っています。ありがとうございました。”

更に返信。“川村先生、スタッフの皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。メールの返信本当にありがとうございました。読みながら先生の偉大さ！優しさ！に本当に感動してしまい何度も読み返してしまいました！私達親子は本当に川村先生の患者でいられる事に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。◎にも先生に頂いたメール読ませましたが「本当に川村先生は優しい！川村先生みたいな先生に出会えて良かったよね♪」と…一緒に感動してしまい涙でちゃうね…と話していました。○はこここのところ大学にバイトに頑張っている様子です。なかなか気持ちに安定がなくなる時もみえますが、まずは見守らないと！だと思い頑張っています。”

○ちゃんは赤ちゃんの時からずっと診ていました。だからこそ、大人になっても係わり合いを持って対応できる。それがかかりつけ小児科医の本来の役割でしょう。こんなメールをいただけることが、小児科医冥利に尽きます。

1月28日「Nスタみやぎ」をご覧になったでしょうか。先生かっこ良かったと評判です(笑)。青葉区のインフルエンザに罹患した木島さんから、テレビを見ての相談です。

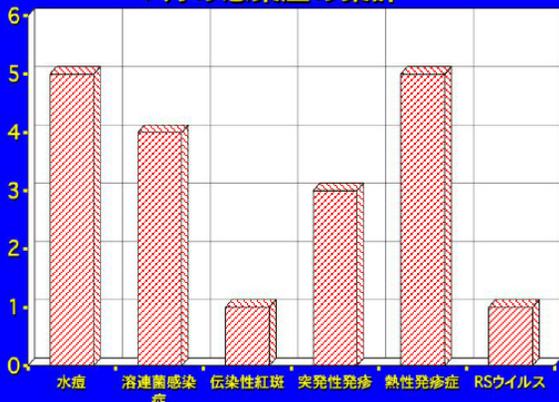
“こんばんは。Nスタみやぎ、観ました。警報が発令されたということですが…私も流れに乗り(?)インフルにかかってしまいました(-.-; 家族、職場等身近には誰もいなかったし熱も37度~38度前半と微妙だったのですが、変な悪寒とダルさが気になり、急のため…と急患センター受診したらピンゴ!! A型とのことでした。どこでもらったか原因探ししてもしょうがないのでしませんが、今後気になる点があるのでメールしました。---

- ①家庭内感染を防ぐために頑張っていますが、感染しなかった!! と安心してよいのはいつ頃からでしょうか?
- ②今のところ息子娘は元気ですが、咳が出始めました。ドキドキしながら様子を見ていますが、受診のタイミングは発熱→検査ができる時間をおいて、てよいのでしょうか?それとも、家族に感染者がいるから検査なし、となればもう少し早くても大丈夫なのでしょうか?

余談ですが、奏太が先生のコメントを聞いて「さすが、かわむら先生!!」と大絶賛してました(*^o^*) しかも、マスク着用をしつこく促してもちゃんとしてくれてなかったのですが、TV後は文句言わず着けてました笑”

相談の回答はどうなったか、知りたいことと思います。スペースが無いので、ブログに回答を含めて全文を掲載します。このメールの一番のポイントは、テレビを見て、マスクをするようになったことでしょうか(笑)

1月の感染症の集計



溶連菌感染症と水痘は厳守しています。グラフには示していませんが、インフルエンザがじわじわと増加し最終的には38人となりました。月末には宮城県で警報が発令されました。感染性胃腸炎は相変わらず多い傾向が続いています。今後インフルエンザの流行が拡大します。F.B.で情報を提供しているので参考に。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、560人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebook ページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

インフルエンザ警報が出たにもかかわらず、未だこの辺りでは流行の気配はありません。県の一保健所管内で30人を超えただけで、県としてはやっと注意レベルです。毎年インフルエンザ時期になると、ストレスが増えます。如何にして検査をしないで子どもに負担をかけないで済むのかですが、この辺りはマスコミの報道や何でも検査する医師の姿勢が問題なのでしょう。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』
『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!